

東京都教育委員会では、父親の家庭教育及び地域活動への参加を促進するため、いろいろな手法と内容でモデル的に、「父親パワーアップ講座」を3回実施しました。1回目は、小学校PTAと連携した、父親と子どもとの「一緒に『もの』をつくり、遊ぶ」取り組み、2回目は、企業と連携・協力し、日頃、講座等への参加が難しい父親層を対象に学習の機会を届ける取り組み、3回目は、今、全都に広がる「おやじの会」等の活動のノウハウや経験等の交流・交換に向けての取り組みを行ってきました。

今回は、それら3つの講座を特集レポートとしてお知らせします。

第1回

一緒に作り、遊ぶ楽しさを共有した、
「おとうさんとつくり!!水鉄砲・泥だんご」
〔PTAとの連携〕

平成15年10月26日(日)、荒川区立尾久第六小学校校庭で、「おとうさんとつくり!! 水鉄砲・泥だんご」を開催しました。

この講座は、荒川区立尾久第六小学校PTA及び荒川区教育委員会にご協力をいただいて実施したもので、当日79名(親36名、子ども43名)の参加者が、尾久第六小学校PTA会長 仲本英樹さん、副会長 村山尚弘さんの指導のもと、「光る泥だんご」づくりやビニールパイプを使用した水鉄砲づくりに挑戦しました。秋の日差しを受けながら、おとうさんと子どもと一緒に、泥まみれになりながらも、夢中になって泥だんごをつくり、何度もつくっただんごに砂をふりかけ、そおと撫でるように、丁寧にこすっている姿が印象的でした。

「すごく楽しそうに、生き生きとして取り組んでいました。」
「日頃、子どもと遊ぶ機会があまりないので、子どもが大変喜んでいました。」

「父親の『泥だんごづくり』のうまさに感心されてしまいました。」
などといった声が寄せられたように、お互いに普段みられない姿をみるとともに、「一緒に作り、遊ぶ」楽しさを共有した一日でした。



砂をかけて、こすって、また砂をかけてこすって...。うまく光るかな?

第2回

父親として、どんな「生き方のモデル」を見せていますか?
講演会「思春期の危うさーそのとき、父親は?」
〔企業との連携〕

平成15年11月7日(金)、富士ゼロックス株式会社本社を会場に、「思春期の危うさーそのとき、父親は?」というテーマで、富士ゼロックス社員、他企業関連部署担当、区市町村教育委員会家庭教育事業担当者などを対象に、講演会を開催しました。

この講座は、経済同友会の推薦を受け、富士ゼロックス株式会社にご協力をいただいて実施したものです。当日は、46名の参加者が、講師のししがちだいさん(教育問題研究家、民間電話相談機関「子ども110番」相談員・顧問)とともに、電話相談での思春期の子どもたちの声や状況などの具体的な事例をもとにしながら、思春期の特徴を理解し、子どもの気持ちを受け止め、コミュニケーションをとりながら、どのようにかかわって、支えていくことができるのか等について考え合いました。

講座終了後、参加者からは、「会社でこのような機会をもてるとは思っていなかった...。楽しく聞かせていただき、気持ちが軽くなった感じがします。」

「日頃、このような講演に参加する機会がなかったため、身近なところで開催され、非常によかった。」

「思春期の娘とのかかわり方、接し方のヒントを得ました。」
などといった声が寄せられました。

日頃、こうした講座等への参加が難しい父親層を対象に、企業と連携・協力して、家庭教育について考える機会を届けていくことは、ますます、求められてきています。



同僚と子どもの話で盛り上がるなんてはじめて...

第3回

「おやじ(父親)交流フォーラム～『おやじ』が、子どもとともに地域で楽しむために～」
〔おやじの会の交流〕

平成16年3月7日(日)、東京体育館第一研修室を会場に、「おやじ(父親)交流フォーラム～『おやじ』が、子どもとともに地域で楽しむために～」を開催しました。

この講座で、当日参加者99名は、「魅力ある『おやじの会』等の活動を探る」として、地域で魅力ある活動を進め、成果を上げている、「町田市立南大谷小学校 オヤジの会」(代表 下山洋一さん)、「狛江市立狛江第二中学校 おやじの会」(会長 小山武久さん)、「中野区立大和小学校 おやじの会」(代表 吉田尚久さん)、「板橋区立蓮根第二小学校 あそぼう会」(PTA会長 田中利仁さん)、「練馬区立練馬中学校 練中おやじの会」(副会長 森幹司さん)の5つの活動事例に学びながら、おやじ(父親)として地域の中で何ができるのか、何が求められているのか等について考えていく

とともに、「おやじの会」等の活動のノウハウや経験の交流・交換を行いました。

「『おやじの会』のパワーに圧倒されました。おやじの特技・趣味などを活かし、楽しみながら地域、学校で活動が続けていることは、とにかくすごい。」

「地域や学校で、父親自身が楽しむ場面や活動をつくることは大切だと思う。自然に、まわりの子どもたち、大人たち(先生含む)も少しずつ変わっていくような気がします。」

「地域で活動したいのですが、なかなかきっかけがなくて...。息子が小学生なので、とにかく、身近な『おやじ(父親)』たちに声をかけてみようと思います。」

などといった声が寄せられたように、地域や学校における「おやじの会」の広がりや存在意義を改めて感じるとともに、活動のノウハウや経験などを、これからも共有できるような、ゆるやかな「おやじの会」のネットワークづくりが各地域でも求められていることを実感しました。